

シャクヤク
Paeonia lactiflora
 (キンポウゲ科)

促成栽培による生産もあるが、季咲きの5月、6月に出荷が集中する。高温多湿期にはうどん粉病、灰色カビ病が発生しやすい。切り前が早いと開花しないこともあるが、後処理剤を用いても著しい改善はみられない。多くの場合葉や花弁が萎れて品質保持期間が終了する。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
開花	A: がくが割れて花弁が露出する B: 花弁が展開する C: 露芯する D: 落弁する あるいは E: つぼみそのまま開花せず(不開花)	落弁せずに萎れや褐変が生じる場合も多い
花弁の萎れ	触ってみて A: 張りがある B: やや軟となる C: 軟らかくなる 視覚的に D: 激しく萎れる	しおれは弁縁から発生して花弁全体に広がる。最終的には、E: 乾燥状態となる。
花弁の褐変	A: 褐変なし C: 弁縁にわずかに褐変斑がみられる D: 褐変斑が広がる	花弁の萎れと並行して起こる場合が多い。
葉の萎れ	A: 萎れなし B: やや萎れる C: 葉が垂れ下がる D: 激しく萎れ、葉色があせる	
その他	病害の発生、ブルーイングなど。	

2) 留意点

いけ水につかる部分の葉は取り除く。

評価開始時に病害が発生していなくても、うどん粉病や灰色カビ病が急激に広がることもある。発生がみられたら直ちに取り除く。

花弁が展開せずに開花段階が進まなくなった場合には不開花の判定をする。花弁の展開がみられた場合には、花弁の萎れや褐変により日持ちの判定を行う。

3) 開花



4) チェック事項

